

(はじかれ者) (ボエム宮原貴子)

いつまでも人を怖れてた傷つく事を怖れて人の輪にとけ入めないはじかれ者は淋しさを抱える一方で、人との気遣いの中で疲れてそんなときに限って傷つけられた繕がラスのような心が砕かれ続けて、誰もそんな孤独な叫びを気付かず、心ない言葉で笑う。いつしか一人でいる事が、存在さえも認められず、当たり前の日常の中で苦しんでいた。人知れず心が傷んで自分を責めて、人のあやつり人形のように感情を封印した。明るい日射しの元で、楽しそうな人の輪、いつしか知らないフリをして、気付かれないフリをして、日陰の奥で言葉にならない叫びを拾った私と同じ孤独な人がそばにいる。

(生きがい) (おエム宮原貴子)

あなたの好きな事は何？、続けてきた事の中で一番ドン底にいたときに好きで続けた事を極めれば人生の何よりの武器になって、いつしか昔嫌そいた自分の欠点が好きになるかもしれないし、今の自分の役に立った事を数えてごらん、ほら、いくつもの可能性がある。人を色メガネで見ないで、どんな人にも、生き辛さが隠れてる。がスズを起こした心なら、誰かに自分のエネルギーの元となった出来事や趣味、歌、なんかを聞いてみるのもいいかもしれないし、言葉そのものかもしれないし、人は皆オリジナル、だから、面白んだよ。その為が一番大事な事は意外と自分の事を良く知る人がヒントかもしれない。